

奈良市民憲章

奈良は日本のふるさと、美しい自然とすぐれた文化遺産を守り、古都に住むものにふさわしい自覚と誇りに生かしましょう。

奈良は未来をひらくまち。青少年は健康で、はつらつと、正しく強い人間になりましょう。

奈良は海意のまち。みんなのしあわせのために、おたがいに助けあひましょう。

奈良は清浄で平和なまち。旅行者にはあたたかく親切に接しましょう。

奈良はのびゆくまち。市民の創意で、伝統と調和のとれた新しい住みよいまちづくりをしましょう。

# 奈良市民だより

No. 397

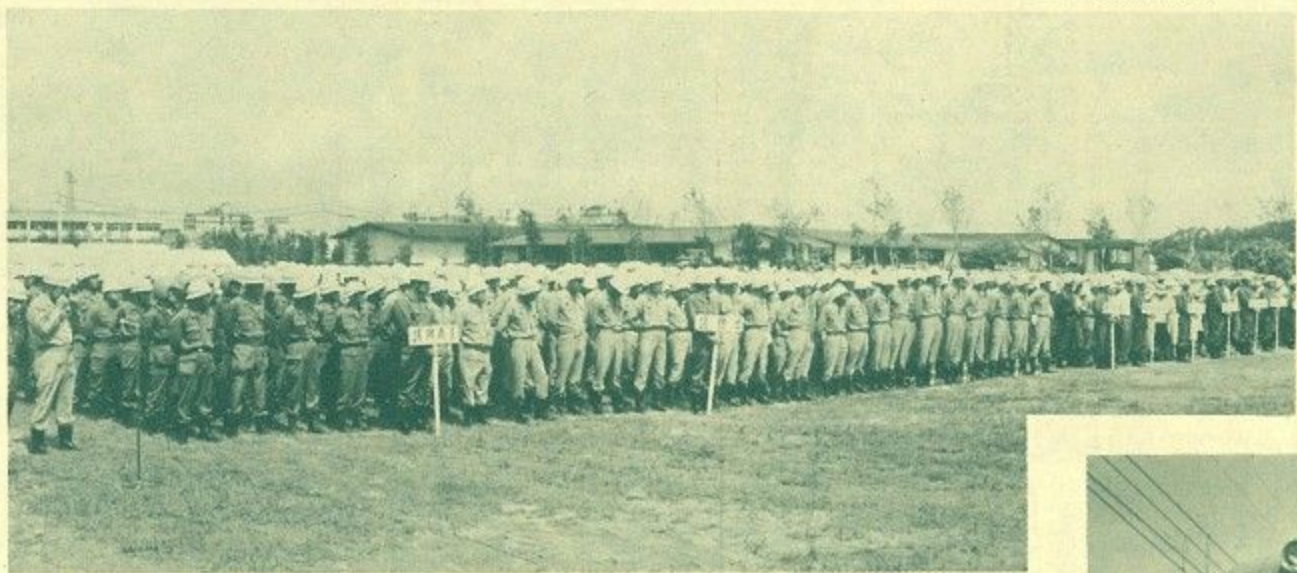
市民のうごき

7月15日現在 (前月比増)

人口	279,080人 (413)
男	135,377 (239)
女	143,703 (174)
世帯数	88,349 (102)

## スロ大水地震だ!?

勢ぞろいした二千七百人の防災要員と参加者



陣頭指揮する鍵田災害対策本部長

仮設住宅を燃やして消火訓練する奈良市消防署員



脱線した電車(想定)から負傷者を救出する救急隊員

### 「防災の日」に 関係各機関が参加 迫真の防災活動 総合防災訓練

奈良市では近年大きな被害をもたらす地震に幸いにも見舞われていませんが、だからといって決して安心しているわけにはいきません。今年に入ってから全国各地で大きな地震が起き、甚大な被害を受けています。奈良市周辺でも過去に幾度か大きな地震があったことが記録に残っています。なかでも嘉永七年(一八五四年)六月十四日(旧暦)に起きた大地震はマグニチュード六・九という大きなもので、奈良で死者が二百八十四人にもほり、まじ全体が壊滅的な被害を受け、「自分らの世代に奈良のまちは立ち直るだろうか」と当時の人たちが嘆かせたといわれています。そこで、奈良市ではその日にちなんでことしから毎年七月十四日を「防災の日」と定め、大地震に備えて日ごろの心構えや防災準備を固める日としました。

最初の「防災の日」の七月十四日午前六時五十分から市内佐紀町の平城宮跡で大地震による災害を想定した大規模な総合防災訓練を行いました。二面に訓練の写真を特集

訓練は「七月十四日午前六時五十分近畿地方にマグニチュード六・九の大地震が発生。震源地は奈良県東北部で、県下の震度は六。地震による被害は死者、負傷者が相当数見込まれるほか家屋の倒壊、道路の損壊をはじめ交通、通信、電気、ガス、水道などの施設にも多くの被害が発生した」との想定で行なわれました。

防災服に身を固めた市災害対策本部長の鍵田市長が陣頭指揮して、木山副本部長はじめ市職員、消防署と消防団、奈良警察署、市自治連合会、地婦連、日赤奉仕団、電々公社奈良支社、関西電力奈良営業所、近畿日本鉄道など十団

体から防災要員千七百人が出動、それに加藤市議会議長ら市議会議員、地元自治会、万年青年クラブなどから千人を加えて計二千七百人が参加。災害対策本部を設置して実戦に即した総合的な防災・救助・復旧活動を展開しました。まず都路地区の人たち二十人が家庭用消火器で初期消火の訓練。この間、市内の被害状況をパトロール中の赤バイ隊からの情報により、被害が大きいと判断した鍵田災害対策本部長は防災関係機関へ出動を要請。

市の広報車が、火の始末と付近住民の避難を呼びかけるとともに、避難所や救護所が設置され、日赤奉仕団の人たちが炊き出しを始める。市職員の誘導で自治会・婦人会の人たちが続々と避難所に集まり、日赤奉仕団員らがこの中の重傷傷者二十人に応急手当をえました。

さらに訓練場に特設された木造家屋に火災が発生、市消防本部と消防団連携で懸命の消火活動を展開。一方、市消防団は決壊した秋篠川の堤防の復旧に出動。続いて電気、ガス・通信施設の復旧作業に各関係機関が大活躍、手きわよくまたたく間に復旧させました。

市水道局は水道管破損箇所を、また土木班は道路のキ裂にダンブカー三台を出動させ、それぞれ応急復旧作業を行ないました。

またビル火災によって逃げ遅れた屋上の住民を救出する訓練が旧県立奈良医大病院の建て物で行なわれ、ハンジ車、シノノーケル車が出動、時を移さず屋上の避難者を全員救助しました。

一方近鉄奈良線では西大寺駅東方約三百メートルで地震により電車が脱線、負傷者が出たとの想定で、実際に走行中の近鉄電車を緊急停車させて救助訓練が行なわれました。

訓練のあと鍵田本部長は「二千七百人も参加しての訓練は奈良市で始めてのことである。順調に訓練が行なわれ、志気も旺盛であった。こうした訓練を日ごろから重ねておくことが災害の起こったときいくらでも被害を少なくすることが出来る。備えあれば憂いなしである。お互いの生命・財産は自らの手で守るのだという心構えを認識し、この訓練で体験したことを生かして不時の災害に対処していきたい」と講評しました。

このあと関西地方に一台しかないといわれる起震車を京都市から借りて震度六の地震を人工的に発生させ、実際に揺れ具合に参加者に体験してもらいました。激しく揺れる起震車の中で石油ストーブやガスコンロの消火、身のこなし方などを学びました。



# 総合防災訓練から



▲ 決壊した堤防を土のう積み工法で復旧する消防団員

▲ 決壊した道路を復旧する災害対策土木班

▲ 主婦も消火に活躍  
壊れたガス管をつなく復旧班

## 施設見学会

### 25日、親子で30組

市の行政の姿をあなたが目で見たい。かめでもらうため、こどもも市の施設見学会をつぎの要領で催します。夏休み

の一日を社会科学習を兼ねて、小学生と父兄の方と一緒にバスで見て回ってもらおうというものです。

参加希望の方は、八月十五日までに奈良市北新町六一一、市広報公聴課(☎六一一)へ、はがきに参加される方の住所・氏名・電話番号を書いて申しこんでください。定員は三十組六十人で、申し込み多数の場合は抽選で決めます。

参加資格 小学生(三年以上)とその父兄。▼とき 八月二十五日(金)午前八時四十五分〜午後四時。▼コース 市役所一階市民ホール

## 市民大学

住みよい町をつくり国をつくるためには、それぞれの政治をよりよいものにする必要があります。最近のはげしい社会情勢の変化の中で、私たちは政治への正しい認識と理解をもって、自らの判断で選挙をすることをせまられています。

市選挙管理委員会では市明の選挙推進協会と共催で、市民に政治に対する正しい心がまえをもってもらうために第十回市民大学を

## 来月ひらく

### 申し込み30日まで

氏名・年齢を明らかにして市選挙管理委員会(北新町六一一、☎六一一)へ申し込みください。定員は先着順三百人。開講時「日本社会の長所と短所」京都大学教授高坂正純氏

「人の道行政」奈良市長 磯田忠三郎氏▼「心と眼の観光」大安寺貫主河野清晃師

九月二十日(水)「おんなの眼」読売テレビプロデューサー 末次慎子氏▼「人の心をとらえる」大阪芸術大学教授泉田行夫氏

九月二十七日(水)「日本社会の長所と短所」京都大学教授高坂正純氏

## 水の週間

### 【水を大切にしよう】

国土庁主催による「水の週間」が八月一日〜七日まで行なわれます。この週間は、他の資源と同じように有限で貴重な資源である「水」を大切にしようとする。その将来をどうにかしようとする。定められた

## 将来水源の確保に全力投球

奈良市水道の今年一日最大配水量は、十三万八千立方メートルと予想されています。現在市が確保している水源は木津川水源、布目・白砂川水源、泉宮水道からの受水、富雄地下水

す、二〜三年後には現在の水源だけではどうしても足りなくなります。さらに五年先、十年先となれば、不足する水も相当大きな量となりま

京の水づくり」を目標に、水源の確保と施設の拡張に全力をあげています。国によって建設がきまった布目ダム(現在建設のための地質調査中)の水を使用する権利を買いと

## 花火遊びにご注意

### 文化財周辺はご法度

夏の風物詩として古くから親しまれている花火は、夜ごと市内のあちこちで楽しまれています。

しかし、楽しいはずの花火遊びも遊ぶ場所が悪かったばかりに、火事を起こすことが少なくありません。今年の六月には大津市で、宿泊客が打ち上げた花火から旅館が全焼した例もあります。

また、建物の密集しているところや、枯草などの多い場所では花火遊びはやめましょう。花火遊びはつぎの注意を守り、夏の夜を楽しく過ごしてください。

花火に書いてある遊び方をよく読んで必ず守ること。花火をする前に水を用意して、大人がつき添うこと。花火を家に向けてたり、燃えやすいものの近くでしないこと。

## 奈良の大文字

### 15日 飛火野で祭事

郷土の英霊二万九千六百六十五柱を供養するため、昭和十五年からはじめられた日本最大の大文字——奈良英霊大文字送り火は十九回目を迎え、今年も終戦記念日の八月十五日に行なわれます。(小雨決行)

祭典 午後六時から飛火野で▼送り火 午後八時から高円山の大文字点火▼このあと陸上自衛隊の慰問演奏▼参拝者には一万本の大文字うちわが贈られます。

## 心身障害児に歯の無料治療

体が不自由なため、歯科医へ行って治療を受けるのが困難な心身障害児に、ムシ歯など歯の治療を施そうと「心身障害児歯の治療」(無料)が市歯科医師会の協力で、七月十三日から市庁舎西側の市立休日・夜間応急診療所で

月2・4木曜夜  
日、市立休日・夜間  
応急診療所

風がつよい日にははしないこと。一度にたくさんの花火に火をつけたいこと。花火をほぐしたり、ポケットに入れて遊ばないこと。打ち上げ花火は不発であっても、筒の中をのぞかないこと。

初日の十三日は八人が治療を受けましたが、付き添って来たお母さんたちは「今まで歯医者さんへ行くのが困難でしたが、これで歯痛の苦しみがとってやることができひと安心です」と喜んでいました。

この治療は来年三月までの毎月第二・第四木曜日に行なわれることになっています。

中国でハリ・キュウの医学を修めて帰り、鎌田市長にあいさつする武藤医師(右)



### まず武藤医師帰る

#### 医療技術身につけて

筋ジストロフィー、小児マヒなど難病に苦しむ市内の身体障害者を救おうと、中国のハリ・キュウ医療技術を導入して、市内法蓮町の「みどりの家」で計画中の「ハリ・キュウ治療所」の開設に備え、その技術習得のため、ことし四月から中国に派遣していた三人の医師のうち武藤達吉医師(54歳・北井町)が三カ月

### 中国のハリ・キュウ導入

にわたる医療研修を終えて帰国。七月二十二日市役所を訪れ、鎌田市長に帰国のあいさつとともに研修の成果を報告しました。武藤医師は、桜井立良医師(30歳・稚司町)、丘田敦宏医師(48歳・南神殿町)と共に訪中。友好都市西安市の格別のはからいで上海市の上海中医学院に留学し、三カ月間みどり町とハリ・キュウ技術を勉強。七月十二日に無事研修を終了、劉湧波上海中医学院長から「結業証書」(修了証書)を受け、武藤医師だけ一足先に帰国した。鎌田市長は帰国のあいさつをしたあと、武藤医師は「ハリ・キュウで万病を治療できるわけではないが、数多くの病気に有効なことを実地に学んだ。中国医学は西洋医学と東洋医学の両方を取り入れたすばらしい技術で、一日も早く学んできた医療技術を役立て市民のために尽くしたい」と語りました。

### 差別許さぬ

#### 差別をなくす市民集会

七月の「差別をなくす市民集会」にあたって奈良市では、ことしも「部落差別を許さぬ心を育てよう」と「この月間を通して同和問題を自らの課題としよう」を合言葉に、同和問題解決のための運動を展開し、いろいろな行事を実施してきました。その一つとして「差別をなくす市民集会」が七月十七日午後一時から市役所六階正庁で開かれました。

この集会は、市民の同和問題に対する認識を正し、この問題を市民みんなの問題として受けとめようと、毎年開かれていたもので、同和問題に取り組んでいる教育関係者や市職員をはじめ市民ら約六百人が参加しました。

鎌田市長は「奈良市は人の道を盛んにするということを行政目標にしている。差別は人の道に反することである。心の差別をなくす努力をするとともに、同和教育をすすめる、環境改善も徹底してやっ

ていかなければならない。み

なさんとともに手をたずさえて差別のないまちづくりをすすめていきたい」とあいさつ。ついで加藤市議会議長、藤本真典部落解放同盟奈良協



約600人が参加した「差別をなくす市民集会」

議会議長がそれぞれあいさつしました。

このあと寺沢大斎塚山大学講師の「同和对策事業特別措置法の強化延長に向かつて」と題した講演をきいたあと映画「若竹よ雪をはじけ」を見て差別問題を考えあいま



朝早くから集まって町内清掃する横井町の人々

### 横井町で町内清掃

七月の「差別をなくす月間」行事として横井町では七月十六日午前六時から町内清掃を行いました。早朝清掃に参加したのは横井町老人会、同婦人会、解放同盟横井支部婦人部のみなさんのほか隣保館からの呼びかけに自主的に参加した人々を加えて約百人。

ほうきやちりとり、カマなどを手に隣保館前に集合した人たちは、燃やせるゴミ用と燃やせないゴミ用に色わけされたビニール袋を支給され、

いっせいに町内各地に散らばり、道ばた、溝、遊園地やグラウンドのゴミをとり、

市社会福祉事務所で、七月二十四日から在宅重度心身障害者六百七十五人を激励慰問しています。同事務所では八月七日まで残りの全家庭を、市長にかわって川端同事務所長らが慰問しています。

### 市長らが慰問

在宅重度心身障害者 675人

初日の二十四日には鎌田市長が吉田民次郎さん(52歳、南永井町)、奥谷春美さん(11



スイカ割りに興ずる身体の不自由な子ら

Map of the area around the new town hall, including street names like 富雄北一丁目 and 富雄北二丁目. Text: 新自治会長 敬称略 同 敬願 丁目第五井沢伊部奈良山町中光次

### 土用げいこに1,100人 汗を流して技をみがく



空地の草を刈って一時間余り。町はずっかり美しくなり、今後自分の家の前は自分

の手できれいにしようと思っ合いました。

市武道振興会と市教育委員会の共催で「市剣道・柔道土用げいこ、土用参禅会」が市中央武道場(法蓮町鴻ノ池)で七月十四日から十六日まで行なわれま

夏の日差しを浴び、心身を鍛えたいと忍耐力のある青少年づくりにあこがれて行なわれたもので今年で五回目。初日の十四日には午前六時、太鼓の音を合図に参加者二百六十人(うち女子三十二人)一同が中央武道場に集まり、鎌田市長、加藤市議

長らの激励を受けました。鎌田市長は「早朝の六時から七時までの土用げいこに参加するのは、朝ねむいのに、暑いのに耐えて、けいこで汗を流すということは大変意義のあることです。人生に一番大切なことは自分に克つこと。寒げいこは精神をきた

え、土用げいこは技量をきたえます。がんばってください」とあいさつ、二日間共にけいこに汗を流しました。三日間で延べ千八百人が参加、また子どもたちに付き添ってきた父兄ら多数がわが子の練習をたのもしげに見守っていました。写真土用げいこで打ち込み汗を流す豆刺士たち

楽しかった キャンプ 手足の不自由な子どもたち、日ごろ触れることのない大自然の中でキャンプや水泳を楽しんでもらおうと、ことしも肢体不自由児療育キャンプが七月二十一日、二十二日、びわ湖畔京都YMCAサバエ教育センターで開かれました。

参加したのは子どもたち十八人と親八人で、YMCA肢体不自由児サービスクラフと市社会福祉事務所の職員十

九人が世話をしました。二十一日午前八時半から市役所市民ホールでの結団式には鎌田市長も出席し、参加者をはじめ



# 奈良市民だより

号外

## 異常 20%節水をお願い

現在奈良市の上水道供給能力は、布目川・白砂川水系の須川ダムより七万四千ト、木津川より四万三千二百ト、泉宮水道より三万ト、富雄浄水場(井戸)より七千ト、計十五万四千二百トを確保し、市民のみなさんの需要におこたえしてまいりました。

分対処できたのであります。ところが本年は奈良地方気象台開設以来の最少降雨量となり、このため須川ダム周辺でも七月中の雨量は平年の二百五十四トに対して、ことはわずか四十六トと六分の一に落ちたという最悪の状態となりました。

しかし、全市民がいま二〇%の節水をしていただければ全市で必要とする十万七千トの最低水量が確保できる見通しが立っています。この水量は須川ダムの水が一滴もなくなっても布目・白砂両川の自然流水と他の水源によって確保できる量だといえます。

断水をするということはありません。しかし、この計画を遂行するにあたっては、市民の皆さんの節水協力が不可欠の要件であります。

すでに市役所はじめ、市施設では三〇%、学校プールは全面使用中止の措置を講じています。さらに泉宮施設でも三〇%の、節水を実施願っています。全市民もこぞで節水にご協力いただき、一人一日使用水量五百リットルの二〇%を節約していただき、これによって不足する分を補ない、この難局を打開していきたいと考えています。なにとぞご協力くださるようお願いいたします。

これは人口三十万人一日最大給水量十五万トまで大丈夫という供給能力で、今夏のピーク時(七月二十四日)の十三万三千八十トの使用量に十

従って奈良市の一部地域で八月一日と五日から夜間断水(午後十時~翌朝五時)し、地域の方々にご迷惑をおかけしております。

各ご家庭においてはすでに節水にご協力いただいているところですが、ぜひこの二〇%節水にご理解とご協力を重ねてお願いいたします。

断水をするということはありません。しかし、この計画を遂行するにあたっては、市民の皆さんの節水協力が不可欠の要件であります。

洗濯のとき、流しっぱなしで歯をみがかないでください。洋風呂のときは、湯の入れかえを二回を一回にしてください。水道の水での洗車、散水、床洗いなどはしないでください。洗たくは、出来るだけ一回にまとめて洗い、ためすすぎをしてください。洗たくのすすぎ水などは捨てずに、水洗便所使用のときに便そうに流して再使用するなどの方法を考えてください。

## 昼間断水はしませぬ 須川ダムに水がなくなっても

奈良市の上水道の配水については、水源別に須川ダム、木津川、泉宮水道、富雄(井戸)の四水系でまかなっています。その区域は地形の高

(主として西・北地区と旧市の一部)に給水しています。その水源が数十年来はじめてという異常天候のため水が少なくなり、この配水区域のみなさんに迷惑をおかけしているところでは

をえて、この両川の自然流量の増加を確保するとともに木津川水系や、泉宮水道の配水調整などによって、須川ダムの水に頼ることなく、現在以上の給水制限や制限地域の拡大をしない見通しを立てています。したがって、今後い

すでに各家庭におきましては、それぞれ節水についてあらゆる方法でご協力いただいていることと思いますが、今一度つぎのことがらを再認識していただき、一滴の水でも有効にムダなくお使いくださるようお願いいたします。

井戸のある家庭では、ぜひ井戸水を使い、水道は飲料用・食品用に止めてください。

このうち、須川ダム水系は市内でとくに地形の高い地域

しかし、市では布目川と白砂川の農業用水利権者の協力

かざるものがあっても、昼間

いただし、一滴の水でも有効にムダなくお使いくださるようお願いいたします。

井戸のある家庭では、ぜひ井戸水を使い、水道は飲料用・食品用に止めてください。





# 水源は30万人分の水を確保

## 四水源で日量十五万四千ト

### 記録にない今夏の渇水

市上水道の現有水源は、十五万四千二百トを確保しており、一人一日当り最大五百トを使った場合、給水人口で三十万人の使用量に十分対応出来る水源と供給施設が出来ています。

これは、昭和四十六年四月から工事を始め、総事業費三十二億八千六百万円を投じて六年後の昭和五十二年三月に完了した第四期拡張事業によるもので、その結果、今年のピーク時における予測使用量の十三万八千トに対し、まだ余力のある供給施設が既に整えられています。

## 木津川の水全幅活用

### 切替え送水工事完成

市では須川ダム系の渇水に対処し、木津川の水を緑ヶ丘浄水場に送水する工事に八月四日、急ぎ着手し、同十一日完成させました。

木津川の水は奈良配水池に送られ、そこから旧市を中心に給水されていますが、この工事は、この水の一部を西・北部地域に送るための緊急措置です。

奈良配水池と緑ヶ丘浄水場との高低差は五十二尺、距離は約千五百ありますが、

源としては、現在四つの水源がありますが、まずその一つは、上水道創設以来の水源である木津川水源で、取水許可量は日最大四万三千二百トあり、木津浄水場から県道木津一奈良線沿いに五千五百ト間を奈良阪および黒髪山配水池へ送り、近鉄大宮駅を中心とした中部配水区域に給水しているほか、別のルートで直接緑ヶ丘浄水場へ送り、そこから東部配水区域へ給水しています。

須川ダム水源 つぎに、市の東部山間地を流れる布目・白砂両川を水源とするいわゆる自然流下式水源ですが、両川から取水した水はいったん須川ダムにためてから日量最大七万四千トの水を六千トの導管を通して緑ヶ丘浄水場へ送り、さらに延長一万トに及ぶ口径千五百から九百トという大きな配水管（大配水管幹線）によって、平城西配水池・大洲配水池・登美ヶ丘配水池などに送られ、平城ニュータウンをはじめ、西部地区一帯に給水されていますが、別この大洲幹線から分岐して藤ノ木配水池・黒谷配水池へも送られ、西南部へ給水しています。

この大洲配水幹線は、昭和四十七年に市道北部環状線を建設する際、昭和四十一年の断水事故再発を防ぐため、西部地区への送水幹線として、道路下に埋設したものです。

## 昼間断水はしませんが 須川ダムに水がなくなっても

この工事はこの間を口径五百トのパイプで結び、水をポンプアップしようとするもので、通常三カ月かかる工事を一週間で完成させました。

これによって、日量三千トの水が市西・北部地域へ送られることになりました。

★ ★ ★  
★ ★ ★  
★ ★ ★

このように木津、須川ダム、県営水道、富雄地下水を合わせると、一日最大配水量は十五万四千二百トとなり、三十万人の人が十分水を使える水源の確保と施設が完備していますが、今年には異常に雨が少なくなると、とくに西部地区への供給源である布目・白砂川水源の流域は、七月に入ってから四十六トという例年の約六分の一程度の降雨量で、昭和二十九年にはじめて布目・白砂両川を水源とする自然流下式導水路事業計画が具体化されたとき、布目・白砂両川の流量については、過去のデータを基に十分検討、研究されて決定されたものですが、今回の渇水は過去に例をみない異常な渇水状態といえます。

富雄地下水 四つ目の水源は富雄川沿いにある富雄地下水源です。平常は予備水源となっていて、西部地区の水使用量が增大したとき、富雄地区の石木、大和町区域に給水出来るようになってい

このため、須川ダムへの貯水はほとんど不可能となり、ダム貯水量は七月十七日を境として減少しはじめ、八月一日に至って二十万トを大きく割る状態となりました。

使用されている方に二〇％の節水をお願いし、とくに市の施設については、三〇％以上の節水を実施していますが、いっぽうでは配水系統の切り替えによる西部地区への送水についてもその作業を実施しました。

奈良市の地形は非常に起伏が激しく、場所によって高低差の著しいのが特徴ですが、そのため四つの水源による配水系統がそれぞれ独立した形となっていて、配水管のルーブリ化が大変むづかしく、すぐ

に切り替えが出来ない技術的

による給水区域の拡大、大和郡山市の応援給水を含めて、配水系統の切り替えなど技術上あらゆる角度から検討を加え、まず八月二日に大和郡山市との通水工事を実施し、三日から通水を開始して西部富雄の大和町地区に給水して

十一日には送水を開始いたしました。このように配水系統切り替え工事・作業を行なうことにより、他水源をフルに活用し、布目・白砂川においても可能な限り取水するほか、市民のみならずの一人一人が二〇％節水を実行していただくことによって、須川ダムに水がなくなっても昼間断水を絶対しない態勢を整えることができ、この異常渇水を乗り切れる見通しになりました。

## 将来水源の確保と見通し

### 布目ダム建設へ期待 多目的千七百三十万トの水源地

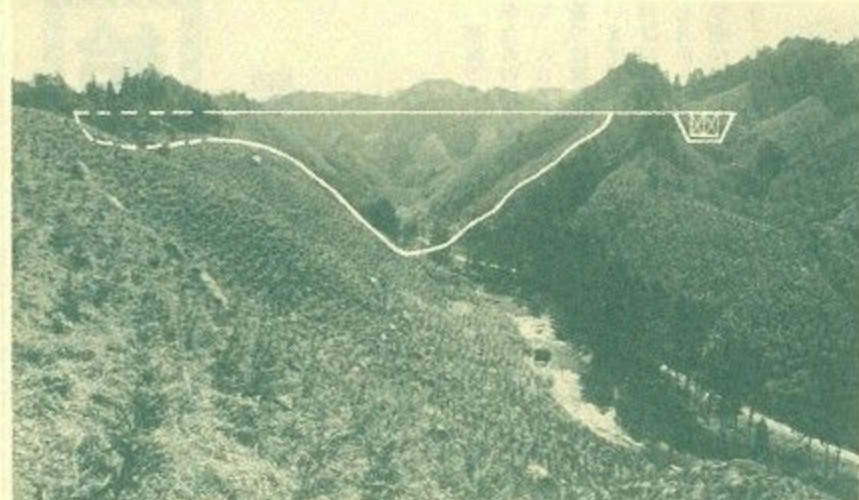
市の将来水源として最も大きなものの一つに布目ダム建設があります。

布目ダムは、現在市が取水している布目川上流で、奈良市と山添村にまたがって建設される洪水調整と上水道用水のための多目的ダムです。昭和五十一年一月十六日に、布目ダムを国によって建設することが内閣総理大臣名で告示され、正式にその建設が決っています。

このダムの建設計画については、市が自然流下式導水路事業を計画するにあたって、将来須川ダムにつぐ第二の貯水池を布目川で造ることとし、現在の導水路は将来水源の増量を見込んだ余裕のある

布目ダム完成の十年前から、須川ダム完成の十年前から、すでに市独自の調査を行なっていました。しかし、須川ダムの何倍ものダムを市が単独で造るといのはとても無理だということがわかりました

要であり、市では国によって建設してもらおうと精神的に働きかけてきました。幸い国の方でも水資源開発計画の一環として、市のダム調査と並行して昭和四十二年から調査されており、予備調査を経て五十一年一月淀川水系の水資源開発計画の中へ組み入れられ、ダム名も正式に「布目ダム」として建設されることになったわけでした。



布目ダム建設予定地 (布目川下流から＝点線の部分がダム)

しかし、市にとって将来の大きな水源の一つである布目ダムを遅くとも昭和五十八年の完成を願う、諸調査が順調に進捗するよう市としてもあらゆる協力をしています。

布目ダムは総貯水量が一千万七百三十万トで、県営水道が取水している室生ダムより大きく、須川ダムの実に二十倍以上という大きなダムで、このダムから放流された水を現在の布目川取水場で取水することになります。

この結果奈良市の将来人口三十五万人になっても安定して取水出来る水源であり、市の将来の水需要に十分対応出来る水源となります。